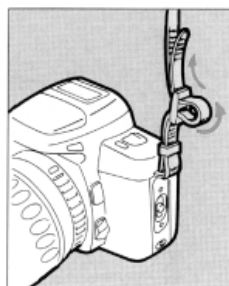


基本編



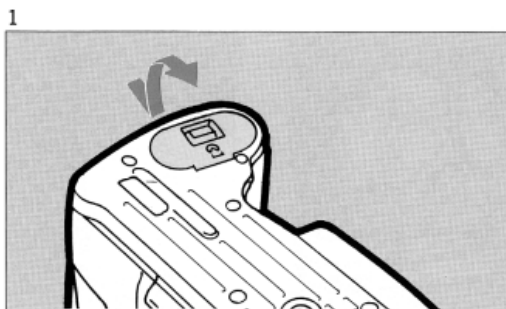
図のように、ストラップを取り付けてください。

- * 歩行中にカメラがあまり揺れないように、腰より上にくる長さに調節してください。

5

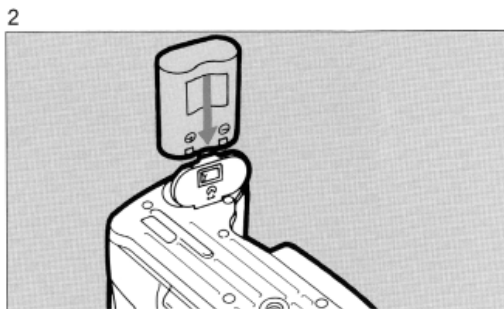
2

電池の入れ方



1. 電池ふたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ふたを開けます。

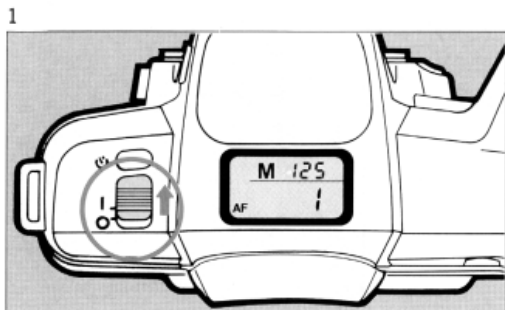
④ Z-10は電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池 **2CR5** を1個入れます。Z-10には、サンプルの電池が添付されていますので、この電池でお試ください。



2. 電池の金属接点側を先に、電池ふたの $\oplus\ominus$ 表示に合わせて電池を入れ、電池ふたを閉じてください。

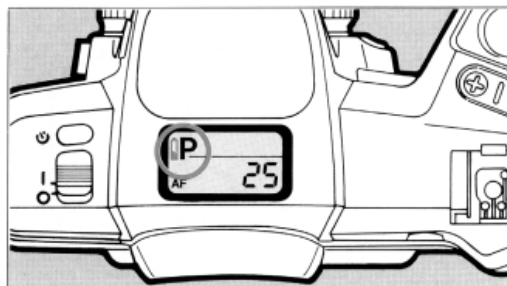
リチウム電池は下表の電池または同等品をご利用いただけます。

国内で購入できる電池	海外で購入できる電池
2CR5 _M パナソニック製	EL2CR5 エバレディ製
2CR5 三洋電機製	2CR5 三洋電機製
2CR5 日立マクセル製	KL2CR5 コダック製
2CR5 ソニーエナジーテック製	2CR5 ファルタ製
DL245 デュラセル製	DL245 デュラセル製



1. 電源スイッチを  にすると電源が入ります。図のように表示パネルに  が表示されれば、電池は正しく入っています。

* 電源スイッチを  にすると電源が切れます。



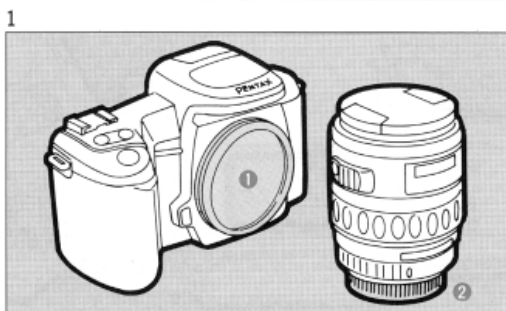
電池が消耗したとき

電池が消耗すると、上図のように表示パネルのバッテリー警告  が点灯しますので、早目に交換してください。 の点滅が始まると、シャッターが切れなくなります。

* 表示パネルにバッテリー警告  が点灯すると、ファインダー内に表示中のLEDも点滅します。

4

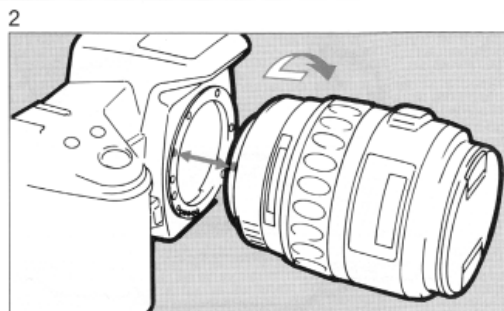
レンズの着脱



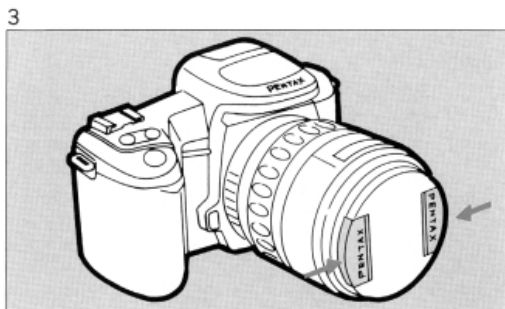
1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。

* ボディカバーは工場出荷時のキズよけやホコリよけ用のものです。保管用には、別売りアクセサリーとして「ボディーマウントキャップK」が用意されています。

* FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム動作を防ぐため、電源スイッチを切った状態で行ってください。

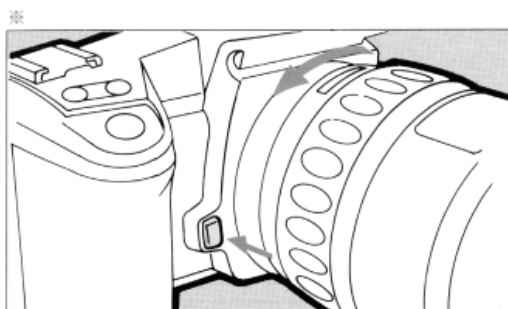


2. ボディーとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右へ回すと「カチッ」と音がしてロックされます。



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押すと外れます。

- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- ボディーやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカブラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。



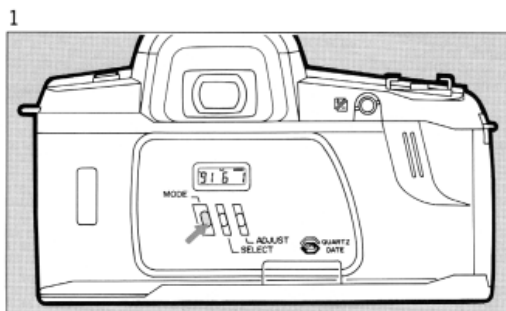
- ※ レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外れます。

- ※ 外したレンズは、接点や、カブラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

9

5

クォーツデートの使い方



1. 図のように矢印のボタンを押して、日付か時間を選びます。

[M] は、「月」の位置を表しています。

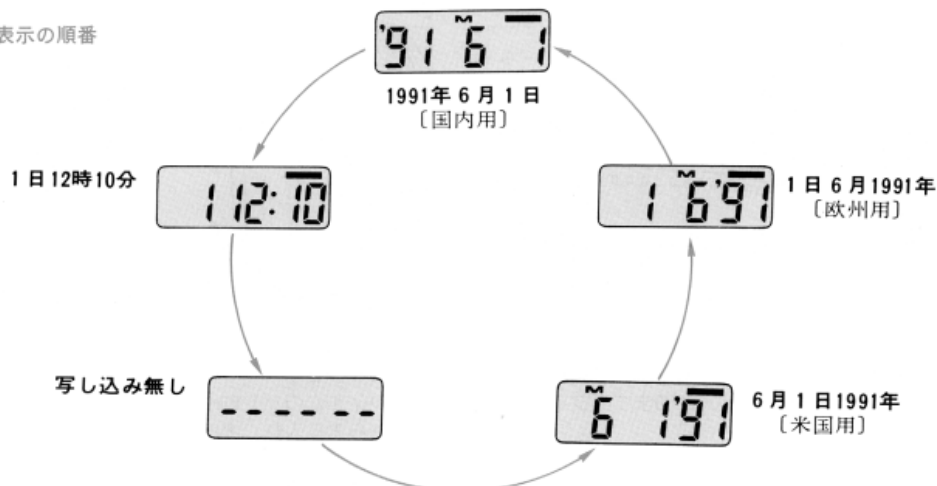
[—] は、シャッターを切ると点滅を続けて、日付や時間が写し込まれたことを知らせます。



※この写真の数字はハメコミ合成です。

- ※ 日付や時間の表示は、撮影のたびに写し込まれます。
- ※ [-----] にすると何も写し込まれません。
- ※ 日付の表示方法は、3種類あります。

データ表示の順番



④ データの写る部分(画面右下)に白や黄色の物があると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

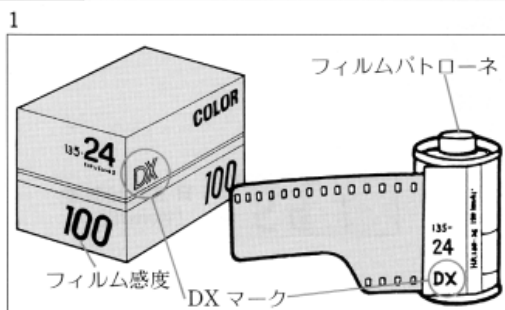
* 日付や時間の修正、電池の交換をするときは、52～54ページをご覧ください。

* 2019年までのカレンダーが記憶されています。

11

6

フィルムの入れ方

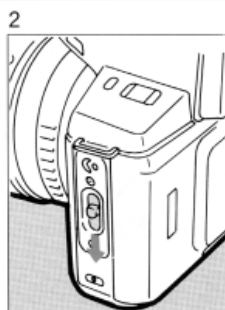


1. 図のように、**[DX]** マークの付いているフィルムをご使用ください。フィルム感度は自動的に設定されます。Z-10は、ISO25～5000までのフィルムが使えます。

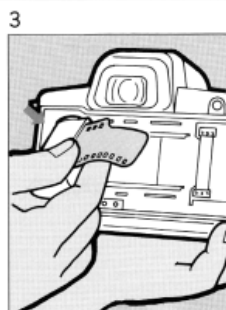
④ シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端部などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。

④ フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行ってください。

* **[DX]** 以外のフィルムは、ISO100に設定されます。

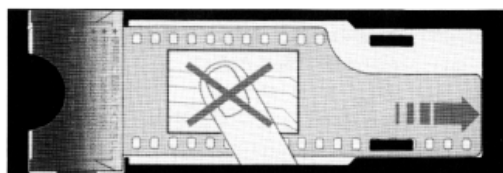


2. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ぶたが開きます。

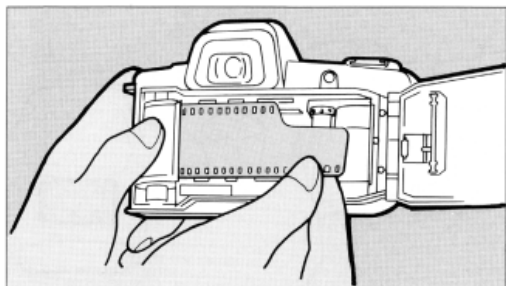


3. フィルムのバトローネを、凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

④ カメラを購入後初めてフィルムを入れるときは、裏ぶたを開いてから、写真のような防傷カバーを、シャッター幕に触れないように注意して、取り外してください。

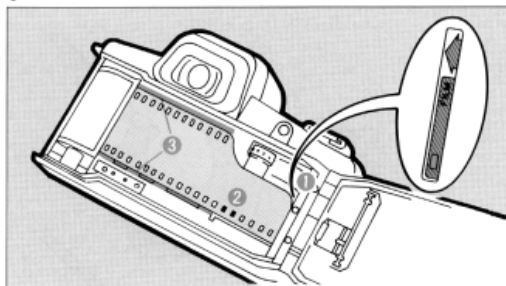


12



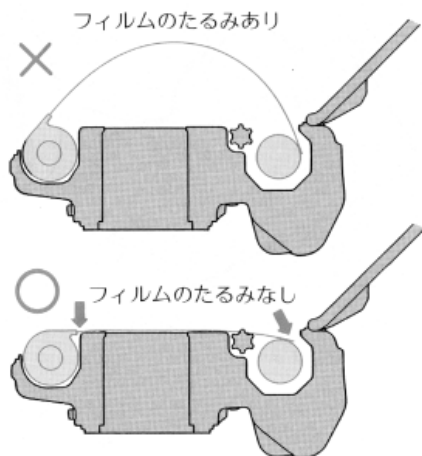
4. 図のように、左手でバトロローネを押さえながら、手やフィルム先端部がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。フィルムを引き出しすぎたときは、フィルムをバトロローネに戻してたるみをとります。

④ フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度を読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾いた柔らかい布などできれいに拭いてください。

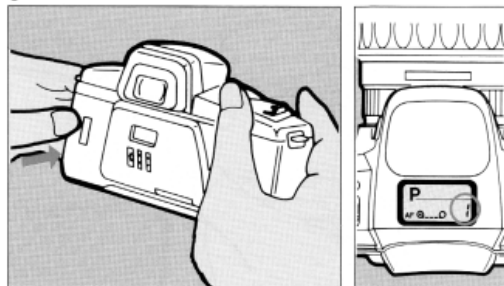


5. 図のように、フィルム先端部を①の赤色先端マークに合わせます。

⑤ フィルムの穴「バーフォーレーション」を②の歯に合わせ、③のガイドレール「赤線」の間にフィルムが入っていることを確認してください。

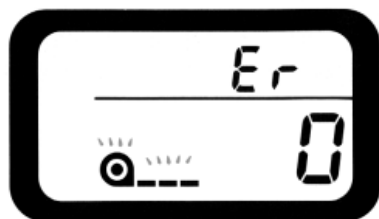


⑥ フィルムは先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。



6. 裏ぶたを閉め電源スイッチを入れると、自動的に1枚目まで巻き上げられますから、表示パネルに*i*と0が出ていることを確認します。

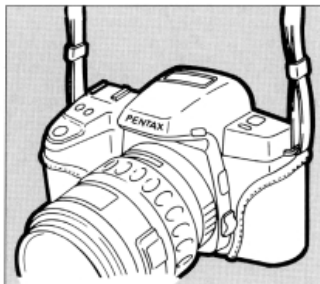
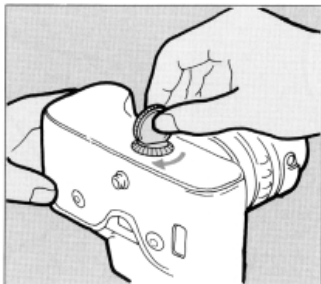
⑦ 表示パネルにErが表示され、0が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください。



1



2



ソフトケース〔別売〕は、バックケース〔底ぶた〕とフロントケース〔前ぶた〕からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して、締め付けて固定します。

ソフトケースには、S・M・Lの3種類があります。

ケース	適合するF、FAレンズ
S	50mm/F1.4、F1.7、ズーム35～70mmなど
M	ズーム28～80mm、ズーム35～105mmなど
L	マクロ100mm、ズーム70～210mm、ズーム28～105mmなど

15

8

カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。〔強く押すとカメラぶれしやすくなります。〕
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させる方法などを利用します。



- * 低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは三脚と、別売りの「ケーブルスイッチF」をご利用ください。
- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラとレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。